



**2018年度  
決算説明会資料  
2019年5月14日**

**株式会社UACJ**

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

ご多忙なかお集まりいただき、誠にありがとうございます。  
2018年の決算について説明します。

## 1. 2018年度通期業績

## 2. 2019年度通期業績見通し

## 3. FY2019～FY2020の中期経営計画

## 4. 財務状況、株主還元

目次に従って説明していきます。

## 1. 2018年度通期業績

まず2018年度通期業績について説明します。

## 経常利益 62億円 (前年度比 132億円減)

### ■ 数量：前年比増

- ・UATH<sup>\*1</sup> (タイ)、TAA<sup>\*2</sup> (米国) の缶材が増加
- ・自動車向けが増加

### ■ 経常利益：前年度比 132億円 (68.0%) 減

#### ◎ 増益要因

- ・Logan<sup>\*3</sup>持分法損益改善
- ・一過性の人件費支払の解消
- ・CUA<sup>\*4</sup>合弁解消による持分法損益の改善
- ・UATH業績改善

#### △ 減益要因

- ・棚卸評価関係
- ・経営環境の急変による販売減 (中国経済の減速/米中貿易摩擦等)
- ・エネルギーコストの増加
- ・TAAの戦略投資による償却費の一時的な増加

## 配当 年間 60円/株を予定

### ■ 年間配当 60円/株を予定 (期末一括配当)

\*1: UACJ (Thailand) Co., Ltd. \*2: Tri-Arrows Aluminum Inc. \*3: Logan Aluminum Inc \*4: Constellium-UACJ ABS LLC

© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

3

2018年度の経常利益は62億円、前年比で132億円の減益となりました。数量と経常利益の増減要因については、後ほど詳細を説明します。

また、年間配当は、期末一括配当で1株あたり60円を予定しています。

## 2018年度 通期業績

UACJ

(単位：億円)

	2017年度 (A)	2018年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	6,243	6,613	371
連結営業利益	292	149	△143
棚卸影響前 連結経常利益	113	30	△83
連結経常利益	194	62	△132
連結当期純利益	123	11	△111
Adjusted EBITDA	507	426	△81

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

4

2018年度の業績を2017年度と比較して説明します。

売上高は、販売数量の増加や地金価格上昇などにより、前年度比371億円増の6,613億円となりました。

営業利益は前年度比143億円減の149億円、そして経常利益は前年度比132億円減の62億円となりました。

棚卸益を除いた実力を示す棚卸影響前経常利益は、83億円減の30億円となりました。親会社株式に帰属する当期純利益は、前年度比111億円減の11億円となりました。

Adjusted EBITDAは、前年度比81億円減の426億円となりました。

## セグメント別売上高・営業利益



(単位：億円)

	2017年度 (A)		2018年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	4,979	297	5,307	170	328	△126
伸銅品	456	21	475	17	19	△3
加工品・関連事業	1,846	43	1,971	31	125	△12
(調整額)	△1,039	△68	△1,140	△70	△101	△2
合計	6,243	292	6,613	149	371	△143

© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

5

次にセグメント別の売上高、営業利益について説明します。なお、当社グループの主力セグメントであるアルミ圧延品については後ほど当社全体の動きとして説明します。

伸銅品では、主力であるエアコン用銅管需要が堅調に推移したこともあり、銅管販売が好調でした。しかし銅地金価格の前年比での下落や棚卸評価悪化の影響もあり、前年度比で増収減益となりました。

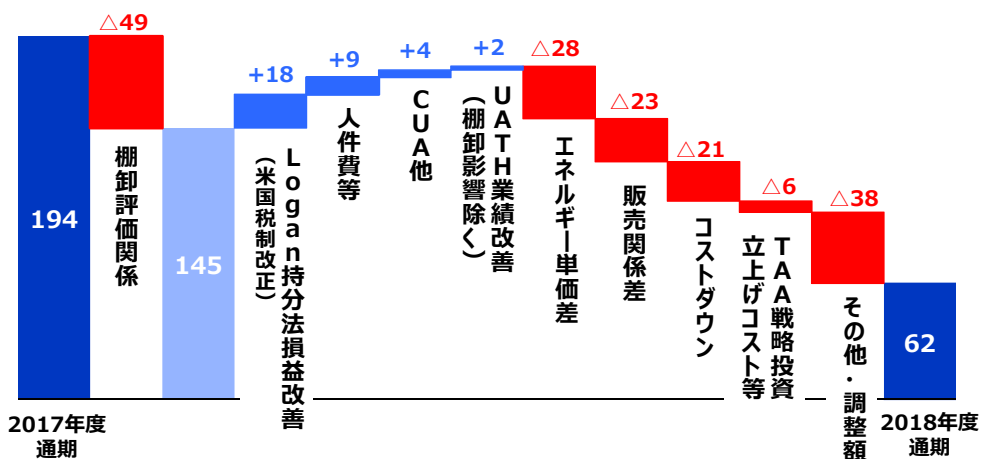
加工品・関連事業は、IT関連事業の落ち込みによる品種構成の悪化や間接費用増などにより、増収減益となりました。

## 連結経常損益分析 (2017年度→2018年度)

UACJ

194億円 (2017年度) → 62億円 (2018年度)

(単位: 億円)



© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

6

経常利益の損益分析について説明します。2018年度の経常利益は前年度比で132億円減の62億円となりました。個別の要因を説明します。

棚卸評価関係は、地金価格の下落にともない、49億円の悪化となりました。

増益要因としては、昨年度のLogan工場などでの持分法損失がなくなったことによるプラス18億円、一時的な人件費支払いがなくなったことや残業の解消によるプラス9億円、Constellium-UACJ (CUA) の合弁解消にともなう持分法損益の改善によるプラス4億円、タイUATHの業績改善によるプラス2億円がありました。

減益要因としては、エネルギー価格上昇にともなうマイナス28億円、液晶半導体製造装置用厚板などの販売減少など販売関係差マイナス23億円。また成長分野への先行投資実施、国内自然災害等が影響しての販売減による製造コストダウン改善額の縮小や、操業度の悪化などに伴うマイナス21億円。さらに北米のTri-Arrows Aluminum (TAA) での戦略投資にともなう焼却費用増加によるマイナス6億円などがありました。「その他・調整額」の38億円には、新設設備の立ち上げにともなう品質対応によるマイナス9億円、国内設備の故障などによるマイナス5億円、その他一過性のコストアップ要因による22億円を含んでいます。

これらの結果、62億円での着地となっています。

なお、タイでの設備故障による一過性のマイナス10億円は、タイのUATHの業績改善の内数として含まれています。

# アルミ板 品種別売上数量



(単位:千トン)

品 種	2017年度 (A)	2018年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	602	666	64
箔 地	49	50	0
I T	21	15	△5
自 動 車	135	147	13
厚 板	69	40	△29
その他一般材	174	177	3
合 計	1,049	1,094	45
	国内市場向け 529 海外市場向け 520	国内市場向け 504 海外市場向け 590	△25 70

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

7

当社の主要な品種であるアルミ板の、品種別の売上数量について説明します。

2018年度の売上数量合計は109万4,000トンと、前年度比で4万5,000トン増加しました。3年連続で100万トンを超える結果となっています。

主要な品種について説明します。缶材はタイUATH、北米TAAともに販売が大幅に増加しました。国内では飲料缶全体の需要が、ビール系飲料の減少、あるいはPET飲料の伸長によって前年度比で減少しました。その影響もあり、販売数量は対前年度比で増加しましたが、当初の想定販売数量は下回りました。

箔地は前年並みとなりました。

IT材は在庫調整局面が続いたことから減少しました。

自動車材は、アルミ化需要の伸長にともない、国内パネル材、熱交換器材とも堅調に推移しました。

厚板はLNG船向けの需要が減少し、液晶半導体製造装置向けについても、中国などでの半導体投資の減速影響のため減少しました。

その他一般材についてはTAAでスラブを外販したことが奏功し、全体で前年度比増となりました。



## 2. 2019年度通期業績見通し

続いて、2019年の通期業績見通しを説明します。

### 経常利益 110億円（前年比48億円増）

#### ■ 数量：前年比増

- ・UATH(タイ)、TAA缶材が大幅に増加
- ・自動車向けも引き続き好調

#### ■ 経常利益：110億円 前年比 48億円（77.4%）増

##### ◎ 増益要因

- ・UATH業績改善
- ・販売関係の好転
- ・コストダウン
- ・CUA合弁解消による持分法損益の改善

##### △ 減益要因

- ・棚卸評価関係
- ・エネルギーコスト上昇

### 配当 年間 60円/株を予定

#### ■ 利益向上を重視、業績連動・期末一括による配当方針を継続

経常利益は110億円と、前年度比で48億円の増益を見込んでいます。

数量は、UATH、TAAにおいて缶材が引き続き大幅に増加する見込みです。加えて自動車材も前年比で増加を見込んでいます。

経常利益の増加要因としては、CUAの合弁解消による持分法損益の改善、UATHの業績改善、販売数量の好転、コストダウンを想定しています。減少要因としては、棚卸し評価関係の悪化、エネルギーコストの上昇を見込んでいます。

年間配当は、業績連動・期末一括で、前年度と同額の60円を予定しています。

## 2019年度 通期業績見通し

UACJ

(単位：億円)

	2018年度 (A)	2019年度見通し (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	6,613	<b>7,100</b>	487
連結営業利益	149	<b>175</b>	26
棚卸影響前 連結経常利益	30	<b>115</b>	85
連結経常利益	62	<b>110</b>	48
連結当期純利益	11	<b>35</b>	24
Adjusted EBITDA	426	<b>520</b>	94

諸元（2019年度）：アルミ地金日経平均 269円/kg，為替 111円/US\$，原油（ドバイ）68US\$/B

※ 今年度より年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

© 2018 UACJ Corporation. All rights reserved.

10

2018年度と2019年度の通期業績比較です。

売上高はUATH、TAAにおける缶材の販売量増により、前年度比487億円増の7,100億円と見込んでいます。

営業利益は前年度比26億円増の175億円、棚卸評価前評価利益は前年度比85億円増の115億円、経常利益は前年度比48億円増の110億円となる見込みです。

前ページに記載の経常利益の増減要因を含んで、棚卸評価前経常利益は改善を見込んでいます。なお、経常利益の増減分析については後ほど説明します。

当期純利益は前年度比24億円増の35億円、Adjusted EBITDAは前年度比94億円増の520億円を見込んでいます。

## セグメント別 売上高・営業利益

UACJ

(単位：億円)

	2018年度 (A)		2019年度 見通し (B)		増 減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	5,307	170	<b>5,670</b>	<b>201</b>	363	31
伸銅品	475	17	<b>501</b>	<b>22</b>	26	5
加工品・関連事業	1,971	31	<b>2,082</b>	<b>36</b>	111	5
(調整額)	△1,140	△70	<b>△1,153</b>	<b>△85</b>	△13	△15
合 計	6,613	149	<b>7,100</b>	<b>175</b>	487	26

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

11

セグメント別の売上高、営業利益の見通しを説明します。

当グループの主力セグメントであるアルミ圧延品については、後ほど全体として説明します。

伸銅品は、主力のエアコン向け銅管販売数量の増加もあり、前年度比で増収増益となる見込みです。

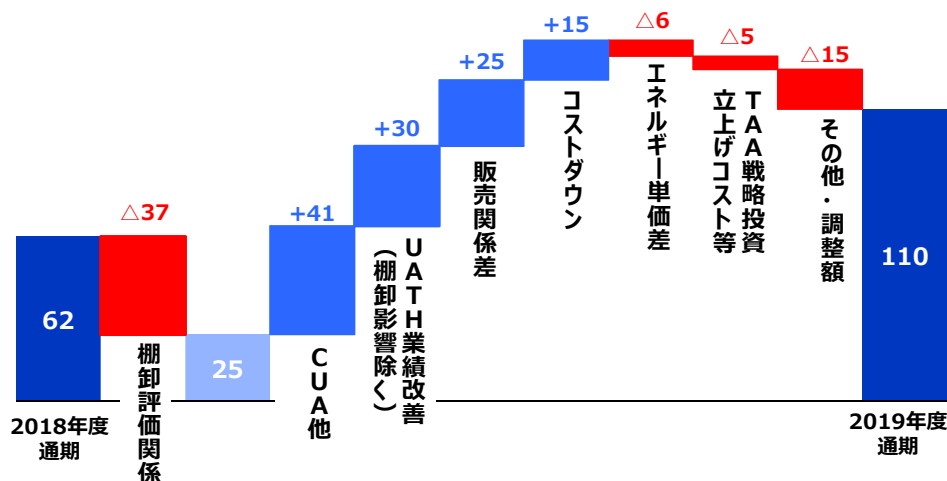
加工品・関連事業は、IT関連需要の落ち込みが続くものの、空調関係や自動車向けの販売数量増加、米国UACJ Whitehall (UWH) の収益改善などにより、前年度比で増収増益と見込んでいます。

# 連結経常損益分析 (2018年度 → 2019年度 見通し)

UACJ

62億円 (2018年度) → 110億円 (2019年度)

(単位: 億円)



© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

12

連結経常利益の損益分析について説明します。

経常利益は前年度比48億円増の110億円と、大きく増加する見通しです。

棚卸評価関係は、2018年度上期の地金価格上昇が大変大きかったこともあり、前年度比で37億円の悪化を見込んでいます。

上記以外の主な増益要因としては、CUAの合併解消にともなう持分法損益の改善によるプラス41億円、UATHの業績改善によるプラス30億円、販売関係差の数量増によるプラス25億円、コストダウンによるプラス15億円を見込んでいます。

主な減益要因としては、エネルギー価格の上昇にともなうマイナス6億円、TAAでの戦略投資・立ち上げコスト（減価償却、金利負担の増加などを含む）などのマイナス5億円、その他のマイナス15億円を見込んでいます。

なお2019年度中にTAAの冷間圧延ライン、UATHの第3設備投資の一部設備が立ち上がる予定です。これらは下期から数量・利益増に貢献すると見込んでいます。この結果、上期と下期では、下期により利益が出ることとなります。

## アルミ板 品種別売上数量

UACJ

(単位:千t)

品 種	2018年度 (A)	2019年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	666	<b>722</b>	56
箔 地	50	<b>52</b>	3
I T 材	15	<b>15</b>	0
自 動 車 材	147	<b>164</b>	16
厚 板	40	<b>42</b>	2
その他一般材	177	<b>194</b>	18
合 計	1,094	<b>1,190</b>	95
	( 国内市場向け 504 海外市場向け 590 )	( 国内市場向け <b>523</b> 海外市場向け <b>667</b> )	( 19 77 )

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

13

アルミ板の品種別売上数量について説明します。

2019年度は前年度比で9万5,000トン増の119万トンと予想しています。海外市場向けがUATH、TAAともに大幅に増加し、順調に海外市場向けの売上数量が増加する見込みです。

缶材はアジア・パシフィックでの需要が堅調なタイ、通商拡大法232条の影響もあって需要がタイトな北米とも、大幅増を見込んでいます。

箔地は若干増加する見通しです。

IT材は、在庫調整局面が続くことから、前年並みと見込んでいます。

自動車材は米国での需要伸長にともない、特に国内の自動車向けパネルが引き続き好調と予想しています。

厚板は2018年度下期からの液晶半導体製造装置向けの環境急変もあり、今後も半導体投資の減速影響が続くというリスクも含んで、前年度比微増と見込んでいます。

その他一般材は、UATHのエアコン用のフィン材が増加し、前年度比で増加となる見込みです。

### 3. FY2019～FY2020の中期経営計画

続いて、現・中期経営計画の進捗を説明します。

## 将来ビジョン UACJのありたい姿

アルミニウムの可能性を最大限に発揮し、  
社会と環境に貢献する

## 中計 2018～2020年度 重点方針

1. 成長市場（アジア・北米）、成長分野（自動車）に注力継続
2. 先行投資の着実な回収
3. 資本効率の向上（ROIC重視）
4. 行動理念の共有と浸透 “UACJウェイ”

## 前・中計 2015～2017年度 重点実行項目

- 海外展開の加速 – 成長市場、成長分野への積極投資、グローバル供給体制構築
- 国内最適生産体制の構築

現中期経営計画（中計）を発表してから約1年が経過しました。この1年で当社を取り巻く経営環境は大きく変化していると認識しています。しかし、経営環境が急変するなかでも、現中計で策定したUACJのありたい姿、そして重点方針を含む戦略の大きな方向性については変更はありません。特に、成長市場であるアジア・北米、成長分野である自動車に、引き続き注力すること。そして前中計のなかで行った投資を着実に回収していくこと。これらには一層こだわっていく所存です。

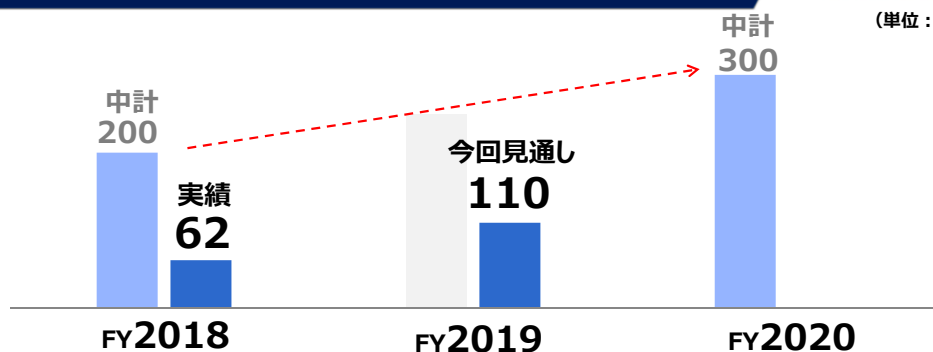
また直近では、廃プラスチックなどの環境問題が深刻化するなかで、リサイクル性にすぐれるアルミニウムの特性が再注目されており、飲料缶やパッケージなどを中心に今後大きな伸びが期待できます。



## 事業環境認識と取るべきアクション

UACJ

(単位：億円)



### 経営環境の急激な悪化

- 米中貿易摩擦、中国経済減速影響により販売が減少
- アルミ地金価格、エネルギーコスト、為替レート等の変動

### 事業計画の大幅未達

- 販売数量の減少・品種構成の悪化、エネルギーコストの大幅アップ

### 財務の悪化

- 収益の悪化により有利子負債が増加

## 事業戦略の再検討

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

16

一方で、先日の第3四半期決算でも説明しましたが、経営環境の急変にともなって、当社の主力製品であるIT材、そして液晶半導体製造装置厚板の販売が減少した影響もあって、経常利益が期初計画から大幅に悪化するなど、計画初年度である2018年度から目標値と既に大きな乖離が生じています。また、収益の悪化にともない財務も悪化しています。

逆風下にある状況でも、安全でお客様に安心していただける事業の継続とさらなる成長を目指して、私自身がリーダーシップを取りながら、全社員一丸となって事業戦略あるいは戦術の再検討を進めていきます。

2019年度中に、何らかの形で、再検討した事業戦略を皆さまに説明する機会を設けたいと考えています。

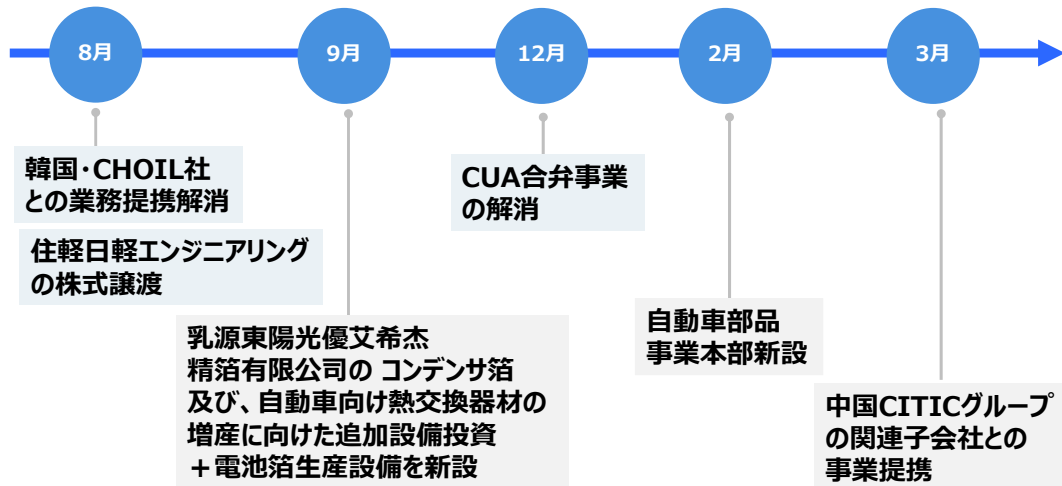
## 事業ポートフォリオの最適化(振り返り)

UACJ

### 資本効率改善に向けて事業の「選択と集中」を加速

2018年

2019年



※ プレスリリース発行月を記載

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

17

現中計の重点方針の一つである資本効率の向上に向けて、2018年度はさまざまな分野で選択と集中を加速し、事業ポートフォリオの最適化を進めました。

具体的なアクションとしては、ここに示したように、韓国CHOILとの業務提携解消、住軽日軽エンジニアリングの株式譲渡、そして米国CUAとの合併事業解消がありました。

また、成長分野である自動車分野において、今後、電池材を含む自動車関連部材の伸長が期待される中国で、設備投資や事業提携を実施しました。

2019年度も、資本効率のさらなる向上に向けて、事業の選択と集中を加速させ、ポートフォリオの最適化を進めていきます。

2019年度営業利益黒字（体質）確立する

2018年度総括

- ・東南アジアを中心に缶材の需要は堅調
- ・一過性の設備故障発生も、生産・販売共に概ねインライン（販売数量：15万t）
- ・第3期工事も順調に進捗

今後の見通し

- ・2019年度は年間20万tの販売を目指す

缶材

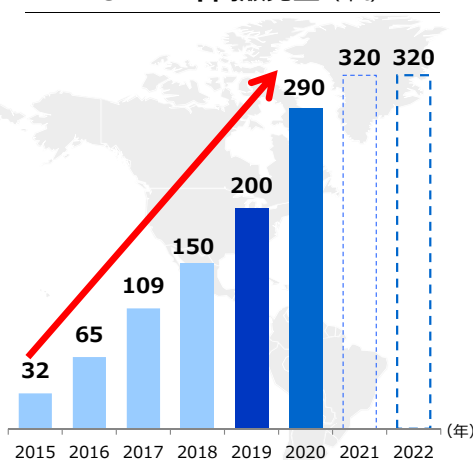
- ・需給タイトで単価UP
- ・品種/顧客構成改善→直販強化

エアコンフィン

- ・高採算品の集中販売による収益アップ

- ・2020年度には 経常損益での黒字化を目指す

UATH 年間販売量（千t）



ここからは成長市場・成長分野での当社の取組み進捗について説明します。まずはUATHについてです。

2018年度は中期経営計画で発表した予定通り、年間販売数量15万トンで進捗しました。2019年度も、引き続き東南アジアを中心に缶材の需要が堅調であることもあり、20万トンを見込んでいます。

缶材、熱交換器材に加え、エアコン用のフィン材も本格販売を開始します。販売強化によるさらなる需要の取り込みや生産性の改善により、営業黒字体質を確立させ、2020年度には連結ベースの経常利益にも貢献すると見込んでいます。

第三期の工事も順調に進んでいます。

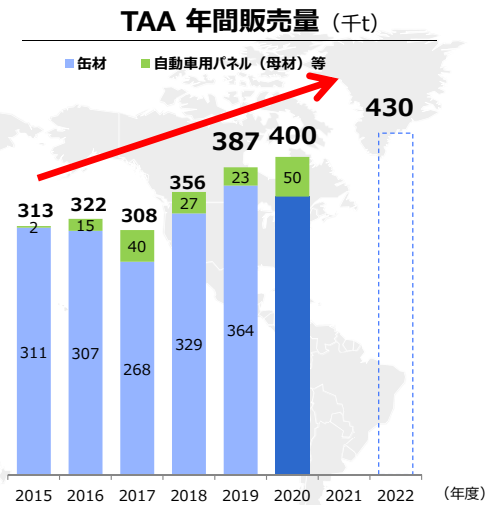
缶材需要を積極的に取り込み、生産効率を更にレベルアップ

2018年度総括

- ・北米缶材需給はタイトな状況
- ・中国材輸入減により、缶材のフル生産が継続
- ・期初計画を売上・利益共に超過達成

今後の見通し

- ・缶材需給はタイトな状況が継続
- ・2015年から実施しているコストダウン投資は回収フェーズへ
- ・販売数量：2020年度 40万t体制へ



続いて米国TAAは、缶材のマーケットで年間を通して需要がタイトになっているということもあり、非常に堅調です。また、通商拡大法232条の影響もあって中国からの缶材の輸入が減少しており、TAAでは年間を通してフル生産が続いています。

昨年稼働したリサイクル・スクラップ溶解設備もフル稼働が続き、スクラップの価格の低下もあって、来期に向けてさらなるコストダウンが期待できます。

また、現在建設を進めている冷間圧延ラインも、2019年9月には完成し、現在の年間36万トン体制から、2020年度には40万トン体制となります。

2019年度は設備投資をとまなう立ち上げ費用増加があり、経常利益が前年比で減少しますが、2020年度、2021年度と、投資効果が発現していく予定です。

今後も北米の缶材需要に、日本での需要とともに、積極的に対応していきたいと考えていきます。

グローバルでお客様の軽量化ニーズに最良なソリューション提案ができる体制を構築



次に自動車材での取り組みを取り上げます。市場拡大が続く自動車用アルミニウム材事業を一層強化するため、自動車部品事業本部を新設しました。バンパーを始めとする自動車部品用アルミニウム材において、拡大する事業機会とお客様のニーズを迅速・確実に捉えるため、企画設計段階から製造販売、品質保証まで一貫して対応できる組織体制とします。

北米においてはUWHが、長年培った技術力が評価されてきたことから、既存の顧客のみならず新規顧客も獲得するなど、トップラインは確実に増えています。同時に、さらなる成長に向けて、最新の押出機を導入するなど、設備も増強していきます。

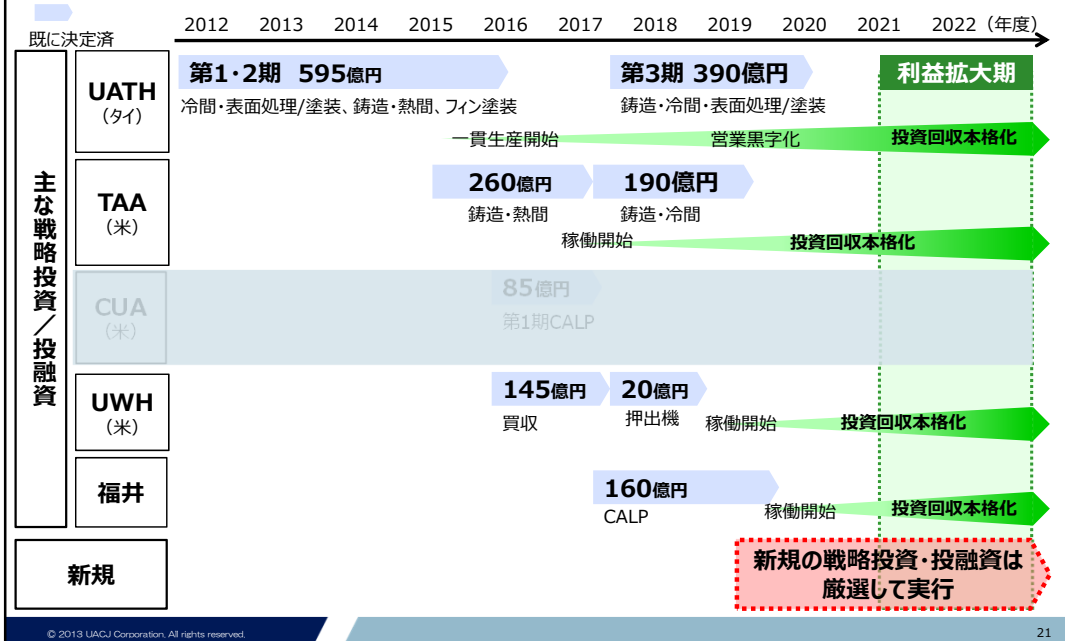
中国においても、CITICコーポレーションの関連子会社である中国中信集団有限公司と事業提携を実施しました。2019年度に製造販売の合併会社を設立し、両者の強みを活かしながら、中国市場向けにバンパーや車載電池用材などの自動車押出部品を製造・販売していきます。

今後も電気自動車（EV）やその先の次世代自動車技術やCASEの普及を見据えて、当社が長年培ってきた技術とノウハウを結集し、お客様に最適なソリューションを提供していきます。

# 先行投資の着実な回収



既決定の主要な設備投資・投融資は概ね2019年度に完了。投資回収・利益拡大期へ



続いて、戦略的投融資の着実な回収について説明します。

現中計発表時に説明した通り、今後の成長に向けて図のように進行中です。進行中の大型投資は計画通りに進んでおり、2019年度には大型の設備投資は予定通り終了します。

投資の回収については2019年度、2020年度を起点に徐々に始まり、2021年、2022年には利益が拡大する見込みです。

なお、新規の戦略投資、投融資は、厳選して実行していきます。

## 4. 財務状況、株主還元

最後に、財務状況と株主還元の考え方についてです。

2019年度もUATH、TAAの戦略投資を中心に投資を継続

(単位：億円)

		2018年度	2019年度 見通し
設備投資	一般投資	161	199
	戦略投資	365	403
	合計	525	602
減価償却費		307	340
戦略投融資		-	7

© 2019 UACJ Corporation. All rights reserved.

23

始めに、設備投資は表のようになっています。

2018年度の設備投資は全体で525億円、減価償却は307億円でした。CUAへの戦略投資を20億円見込んでいましたが、これについての現時点での投融資はありません。

2019年度の設備投資は全体で602億円、減価償却は340億円。うちUATHが58億円、TAAが54億円を予定しています。

一般投資は199億円。福井製造所・名古屋製造所における圧延機の電機品やモーターといった、継続・繰り越しが困難な設備の更新を行います。

戦略投資は403億円。国内での戦略投資は、福井の自動車対応投資132億円を含め137億円。海外では、UATHで129億円、TAAで56億円を投資予定です。

このほか、2019年度は、CITICグループとの合弁会社設立にともなう投融資7億円を見込んでいます。



## 純利益減少に伴いROEが悪化

	2018/3末	2019/3末
自己資本（億円）	1,942	<b>1,910</b>
自己資本比率（%）	25.1	<b>23.7</b>
有利子負債（億円）	3,423	<b>3,751</b>
D/Eレシオ*（倍）	1.50	<b>1.68</b>
R O E（%）	6.5	<b>0.6</b>

\* 劣後ローンの資本性考慮後

次に、主要連結経営指標について説明します。自己資本、ROEとも、純利益の減少に伴って悪化しています。

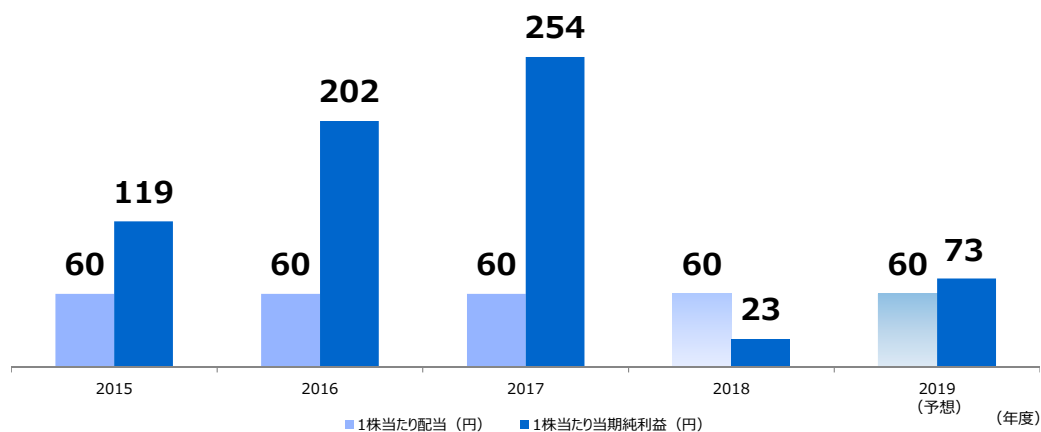
有利子負債についても、UATH・TAAの設備投資分の手当が増加。自己資本比率、D/Eレシオはともに悪化しました。ROEについては利益が減少したということもあり、0.6%となりました。

# 株主還元



基本方針である安定的・継続的配当に基づき、配当予想は前年同額の60円とする

1株当たり配当/1株当たり当期純利益\* (円)



\*株式併合後換算で表記

© 2013 UACJ Corporation. All rights reserved.

25

2019年度の年間配当は、期末一括配当60円を予定しています。今後も安定的・継続的な配当を方針とし、業績動向や財務状況も踏まえながら徹底していきます。

以降のスライドは参考データとなりますので説明を省略します。

以上で説明を終わります。どうもありがとうございました。

**ご参考データ**

## 年間を通じて先行き不透明かつ厳しい事業環境の継続を想定

主要品種	FY2018 期初予想	最新 トレンド	見通し
缶材	→	→	ビール縮小を、低アルコール飲料増加が補う（変更なし）
自動車材	→	→	自動車生産は減るが、環境対応・軽量化でアルミニウム採用車種・部位が大幅に増加（変更なし）
厚板 液晶・半導体製造装置	↗	↘	中長期的に半導体分野への投資は堅調も、足元は経営環境の急変に伴い需要は減少
IT	↗	↘	足元は経営環境の急変に伴い需要は減少

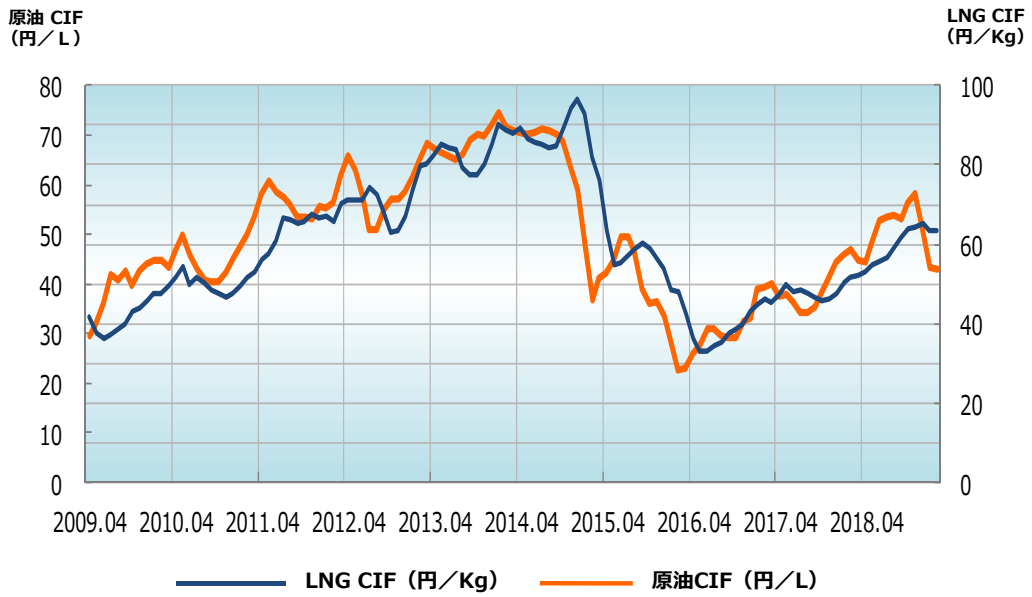
(当社推定)

## 諸元と感応度

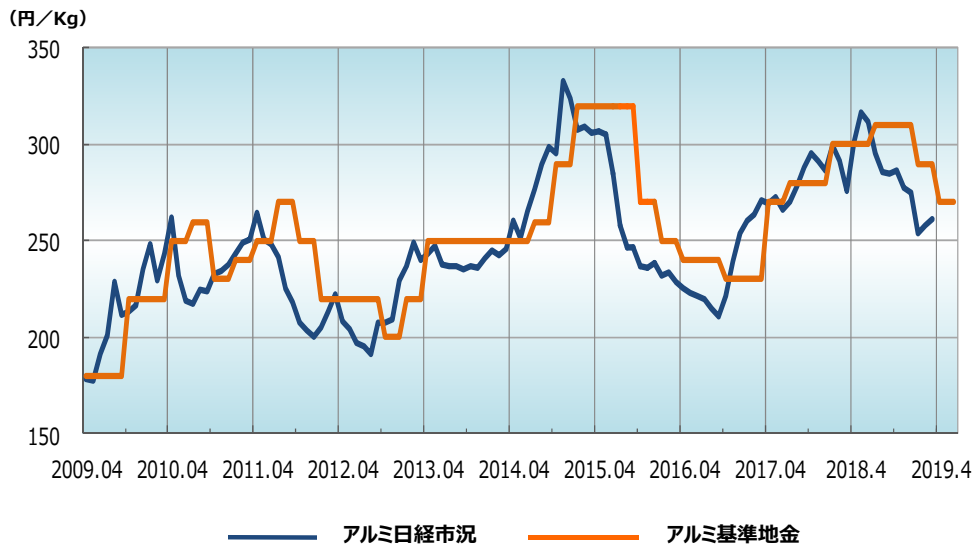


	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)	経常利益への 感応度
アルミ地金 日経平均 (円/kg)	284	269	10円/kg上昇した場合 →+20~+30億円/年
LME (米\$)	2,035	1,900	\$100/t上昇した場合 →+22~+35億円/年
為替 (円/米\$)	111	111	ほぼ影響なし ・燃料単価、添加金属：円高が有利 ・ロールマージン、為替換算差：円安が有利
為替 (円/タイバツ)	3.4	3.5	
原油 (ドバイ: 米\$)	72	68	10ドル上昇した場合 →△10~△15億円/年

# 燃料単価推移



# アルミ地金日経平均・アルミ基準地金



# 主要指標推移



(億円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 (見通し)	
売上高	5,725	5,757	5,683	6,243	6,613	7,100	
連結営業利益	237	152	259	292	149	175	
棚卸影響前連結経常利益	142	203	240	113	30	115	
<棚卸評価関係>	71	△83	△42	81	32	△5	
連結経常利益	213	120	198	194	62	110	
連結当期純利益	86	51	87	123	11	35	
Adjusted EBITDA	417	523	568	507	426	520	
設備投資	一般投資	120	124	112	147	161	199
	戦略投資	345	181	204	365	365	403
	合計	465	305	316	512	525	602
減価償却費	218	222	228	251	307	340	
戦略投融資	38	55	231	33	-	7	
自己資本	1,723	1,650	1,841	1,942	1,910	1,916	
自己資本比率 (%)	25.4	24.9	25.4	25.1	23.7	23.1%	
有利子負債	2,959	2,890	3,238	3,423	3,751	4,000	
D/Eレシオ (倍) *	1.72	1.75	1.49*	1.50*	1.68*	1.80*	
ROE (%)	5.3	3.0	5.0	6.5	0.6	1.8	

\* 劣後ローンの資本性考慮後



## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)